

議員派遣結果報告書

1	名称	第49回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
2	場所	倉吉市「エースパック未来中心」ほか
3	期間	令和6年8月2日（金） 午前9時45分～午後16時00分
4	内容・成果	<p>目的：今日まで積み上げてきた差別の現実から深く学ぶ実践・交流の成果を踏まえ、部落差別をはじめあらゆる差別をなくし、人権尊重社会の実現に向けて、全県民を対象とした集会として開催。</p> <p>テーマ：「人権尊重社会の実現に向けて、研究と実践を交流しよう」</p> <p>主催： 鳥取県人権教育推進協議会 第49回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会実行委員会</p> <p>参加者：約1200人</p> <p>内容：</p> <p>1. 全体会</p> <p>基調提案</p> <p>(1) 人権尊重社会をめぐる情勢</p> <p>① 人権をめぐる情勢</p> <p>② 人権侵害・差別の現状と差別解消の取組</p> <p>(2) 人権尊重社会の実現に向けて</p> <p>人権とは、人間の尊厳に基づいて各人が生まれながらにもっている権利であり、社会を構成するすべての人々が生存と自由を確保し、幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利。</p> <p>「人権教育・啓発に関する基本計画」に明記されてるように様々な視点から学習することで、誰もが等しく持つ権利について、より身近に考えることが必要。</p> <p>Paix²（ペペ）コンサート</p>

2. 午後からは4分科会8分散会で研究討議。

分科会	1. 人権文化社会の創造	2. 就学前・学校教育の創造	3. 共生社会の創造	4. 学習講座			
討議の視点	すべての人の人権が尊重される地域づくり、社会づくりをどのように進めていくか。 子どもたちの仲間づくりや自主活動をどのように進めていくか。	子どもに向き合う人権教育・保育をどのように進めていくか。 一人ひとりの子どもの進路保障にどのように取り組んでいくか。 子どもたちの仲間づくりや自主活動をどのように進めていくか。	同和問題の解決に向けて、県民が関係機関とどのように連携を深めていくか。 さまざまな人権課題を明らかにし、その解決と共生社会の実現に向けて、県民がどのように取り組んでいくか。	さまざまな人権問題に対する基本的な認識や考え方を深め、解決に向けた運動や取組にどのように生かしていくか。			
分散会	企業・社会教育関係団体	市町村人推同教・自主活動団体	就学前・小学校	児童館・義務教育学校	中学校・高等学校	あらゆる人権問題（同和問題）	人権問題啓発講座

分科会は第1分科会（人権文化社会の創造）に参加。

（1）視点：

*すべての人の人権が尊重される地域づくり、社会づくりをどのように進めていくか。

*社会教育団体・企業・行政等で人権学習・啓発をどのように進めていくか。

（2）事例発表の後に質疑応答

① 「外国人介護人材が働きやすい職場づくり」社会福祉法人敬仁会多文化共生社会について

働きやすい職場づくり（人権尊重の取組）として、

現地訪問し、歴史・風土・文化を学ぶ
職員教育の徹底（文化の違い、相手を理解すること等）
学習支援（コミュニケーション大事、わかりやすい言葉等）
宗教への配慮（お祈り時間、場所の確保）
寮の整備（日本の生活のルール指導）
関係機関に対する取り組みの理解促進が重要と報告。

② 「ふれあい食堂を中心に共生社会をつくる」河原共助会・河原人権福祉センター

令和2年にボランティア募集し、多世代交流の場であり、安心感のある居場所として、「ふれあい食堂」（月1回、第4土曜日9：00～13：00ごろまで片付けも利用者と共にする）立ち上げ。

また、子供のつぶやきから、子供主体の「のんびりかふえ」（月1回位）が誕生。

食を共にしながら、見守ることで、小さな気づきから支援に結びつける。地域の連携により、居場所や見守り、支え合いの場が生まれれば、新たな地域活動の担い手が生まれると報告。

（3）研究推進委員のまとめ

① 「外国人介護人材が働きやすい職場づくり」について

人材不足対策で外国人採用し、育成。受け入れ体制の充実されている。労働力のみとしてでなく、仲間として考えられている。

② 「ふれあい食堂を中心に共生社会をつくる」について

多世代交流の場として、地域の見守りとしてボランティアが楽しくやることの好事例。

住民のためのコミュニティづくりのノウハウ参考になる。

中学時代からボランティア活動教育、同和教育が重要。

所感

私は本集会の目的「あらゆる差別をなくし、人権尊重社会の実現に向けて」と第1分科会「人権文化社会の創造」に関心があり参加しました。

人権を尊重し合い、安心して自己実現できる希望ある社会づくりをどのように進めていくのか、人権尊重とういうことをどう浸透させて、地域づくりに取り組むのか、事例発表で学んだことは、相手を理解すること。コミュニケーションをとること。地域食堂が多世代交流、見守り、困りごと解決支援につながっている。ボランティア活動教育の重要性。地域食堂の運営方法はいろいろある等多くのことを学習できました。

人権尊重の地域になるように今後も関わっていきたい。